

デートDV

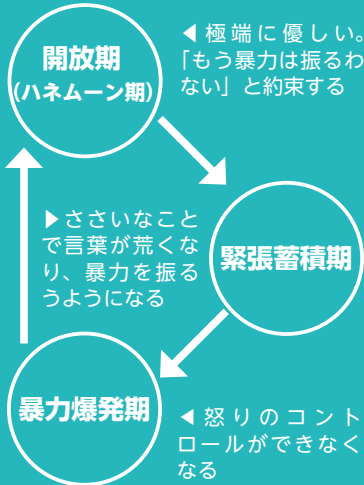
若い世代で増加

恋人同士の間で暴力で相手を思いどおりにすることを「デートDV」と言います。若者にも固定的な男性観、女性観が根強くあり、「男は女性に対して強くなければ」「女は男性に対して従順で嫌われないようにしなければ」といった思い込みがデートDVに繋がります。暴力例は「物を投げる」「パイトをさせる（やめさせる）」「メールを勝手にチェックする」「別れたいと言うと脅す」など配偶者間のDVと変わりありません。しかし若い恋人同士の場合、嫉妬や愛情表現と誤ってしまい、DVと気が付かないケースがあります。

DVのサイクル

繰り返されるDV

DVには一定のサイクルがあり、暴力と優しさが繰り返し現れるとされています。



DVの種類

身体的暴力

殴る、蹴る、物を投げる、髪を引っ張る、首を絞める、刃物を突きつける等

精神的暴力

大声でどなる、人前でののしる、外出を制限する、行動を監視する、交友関係や電話を監視する等

性的暴力

性行為の強要、避妊に非協力的、嫌がるのにポルノビデオや雑誌を見せる等

経済的暴力

生活費を渡さない、外で働くな・仕事を辞めろと言う等



ドメスティック・バイオレンス

DV

わたしらしい、わたしに

夫婦や恋人などで行われる暴力や脅迫、DV（ドメスティック・バイオレンス）の被害があとを絶ちません。DVは決して他人事ではなく、自分が意識していなくても相手を傷つけていることもあります。夫婦間でのDVを目の当たりにすることが子どもにとっては心理的虐待であったり、若年層の間で急増している『デートDV』など、DVの問題は深刻です。今回の特集で、DVのことを少し考えてみませんか。

問い合わせ 総務課人権推進係 内線 404・405

デートDVかも…

彼/彼女はどうか

チェックがあれば、デートDVの関係です。デートDVは相手を尊重していない行為です。

- バカにする。
- 逆ギレして怒鳴る。
- ほかの人と仲良くしていると責める。
- メール返信をすぐに返さないと怒る。
- メールをチェックする。
- 用事があっても一緒に帰らないとキレる。
- 急に怒る、キレて叩く。
- 殴ったり、蹴ったり、髪の毛を引っ張ったりする。

加害者かも…

あなたはどうか

自分が当てはまるかチェックしてみましょう。

- 自分の意見に従わないと、イライラして怒ってしまう。
- ほかの人と仲良くしていると、嫉妬して責め立ててしまう。
- 相手の行動を指示することは、相手のためだと思っている。
- 腹が立つと相手の前で物を壊したり、怒鳴ったり叩いてしまう。
- 2人のことでも、相手の意見を聞かず、1人で決めてしまう。

被害者かも…

配偶者・恋人はどうか

自分が当てはまるかチェックしてみましょう。

- 「バカ」「お前なんかできない」などとおとしめる言い方をされる。
- 言うこと、すること、なんでも知りたがる。反対する。
- けんかしたとき「怒らせるようなことを言ったからだ」とあなたを責める。
- 携帯電話を勝手にチェックして付き合いをやめると怒ったり、メール・アドレスを消す。
- あなたの意見を聞かずに、勝手に物事を決める。

DVは、「身体に対する暴力又はこれに準ずる心身に有害な影響を及ぼす言動」と定義されています。男性が被害に遭う場合もありますが、多くの場合、被害者は女性です。女性に対する暴力は、男性が女性を暴力で支配下に置こうとする意識から発生します。

以前は、ただの夫婦げんかとしてみなされていたりしましたが、今では暴力はどのような理由があっても許されるものではなく、犯罪となる行為であり、重大な人権侵害と位置づけられています。殴る、蹴るなどの「身体的暴力」は人の目にふれやすく、暴力として理解しやすいですが、それ以外に「精神的暴力」「性的暴力」「経済的暴力」といった表に出にくい行為もあります。

若年層のデートDV

中学生・高校生・大学生などの若年層で交際相手から様々な暴力を振るわれることを「デートDV」と呼びます。若年層の特徴は「携帯電話にでない・メール返信が遅いと怒る・発信、着信履歴やメールをチェックする」など、携帯電話などによる監視や行動制限の被害が多くみられることです。

子どもへの影響

両親の間での、DVを目撃することで、子どもも心に傷を負います。また、子ども自身が暴力の対象となっている場合もあります。日常的にDVを目撃しながら育った子どもは、感情表現や問題解決の手段として、暴力を用いることを学習してしまうという、研究結果もあります。

なぜ別れたり逃げ出したりしないのか

DVには一定のサイクル（上表参照）があり、常に暴力的であるとは限りません。加害者が我に返り、「二度としない」と約束することで、被害者は暴力が一時的なものと思いい、「もう一度信じてみよう」と期待し関係を維持しますが、少しずつ緊張感が高まり、ささいなことでもまた暴力を振ります。このようなサイクルが繰り返され、やり直せるという期待、恐怖と無力感、別れたあとの報復の恐れ、さらに経済的な問題もあり、DVから逃れることは容易ではありません。